

## 平成28年度 愛和小学校学校経営方針

校長 阿閉 暢子

### 1 愛和小学校の教育目標 「かがやく子」

○学び考える子：主体的に考え、高め合いながら学ぶ児童

◎温かく正しい子：自他を尊重し、正しい判断と行動をする児童

○心身ともに健康な子：体力向上と健康の保持増進に努める児童

※**持続可能な未来社会を築く一員として望ましい人格**を育むことを目指す。(◎重点目標)

### 2 目指す学校像

#### (1) 子どもにとって「安全で安心な学校」

学校を子どもにとって安全で安心できる学びの場にする。教職員は、子どもの心身の安全を最優先に考え、教育活動にあたる。一人ひとりの子どもが、学校での居場所をもち、認められ自信をもって、集団の中で自分を伸ばしていくことができるよう、教育環境を整える。

#### (2) 保護者・地域の方にとって「信頼できる学校」

学校も保護者・地域も、目的は同じ「子ども達のよりよい成長のため」である。迅速で誠意ある対応、相談しやすい雰囲気作り、行事等への積極的な参加を心掛け、保護者・地域からの信頼を一層高めていく。

#### (3) 職員にとって「やりがいをもって協働できる学校」

教職員個々の専門性や個性を生かしながら、互いに高め合い補い合える教職員集団となる。「子どもにとって」の視点から意欲的に改善を重ねる教職員組織「チーム愛和小学校」となる。

### 3 教育目標実現への具体策

#### (1) 確かな学力をつけるために

##### ① 基礎学力の定着

・全学級で毎日「読み・書き・計算」等の反復学習のための家庭学習課題を出し、基礎学力と学習習慣の定着を図る。

・東京ベーシックドリルの計画的活用や放課後・夏休み学習教室により基礎学力を定着する。

・特別な支援が必要な児童には、保護者と連携をとりながら合理的配慮を実施する。

##### ② 言語活動を基盤とした思考力・判断力・表現力の育成

・五感を通じた体験を実施し、そこでの思いや考えを伝え合う活動を重視する。

・各教科・領域等で問題解決的な学習を展開し、思考力・判断力・表現力を育成する。

・情報収集や情報交換のツールとして、ICT教育を推進する。

・読書週間や家庭読書の時間を充実し、読書への関心を深め、豊かな知識と心の養成を図る。

・各家庭で、学校の教育活動について相談したり話し合ったりする機会を増やす。

##### ③ 学習意欲の向上

- ・体験学習等から出てきた子供の想いや課題を大切にしながら、学習への興味関心を高める。
- ・授業内容や教材を工夫し、学ぶことの楽しさを味わわせる。
- ・第2学年以上の算数では、習熟度別少人数指導を行い、学習意欲を喚起する。

## (2) 豊かな心の育成のために

### ① 心身ともに安全・安心な学校づくり

- ・始業前や休み時間の会話、日記、アンケート等を通して、児童の心の状況の把握に努め、一人ひとりの児童にとって、学級が安心な居場所となるようにする。
- ・互いを認め合う意思表示としてのあいさつや返事を習慣化する。
- ・避難訓練や安全指導の改善・実施を行いながら自分の身を守る判断力と実践力を育成する。

### ② 自他の個性を温かく認め合い高め合う学校づくり

- ・授業に集中しやすい教室環境、児童が所属感を感じられる教室環境を整える。
- ・たてわり活動の充実により、学年に応じた役割を自覚しながら、相手の気持ちを考え行動できる実践力を育成する。

### ③ 道徳的価値の向上と実践力の育成

- ・規律ある温かな学級経営・専科経営を行う。その中で、児童の良い行動を教師が認め褒める機会や児童同士が認め合う機会を意図的に設け、道徳的価値と実践力の向上を図る。
- ・道徳やソーシャルスキルの指導等を通して発達段階に応じた規範意識や実践力を育成する。

## (3) 健康教育の充実と体力向上

- ・計画的な保健指導により、健康への関心を高め、「生活リズム」「食事」「清潔」等についての実践力を培う。
- ・オリンピック・パラリンピック教育推進校として、用具の充実や運動時間の確保等、運動環境を整え体力向上を図る。

## (4) 持続可能な社会の担い手を育むための取り組み

- ・生活・総合を中心に、豊かな体験と問題解決学習を繰り返し行い、未来社会の構築者として必要な力を育成する。児童の教育に関わる全ての人々との連携をより高めるため、言語活動を意図的に取り入れ、活動を展開する。
- ・ユネスコスクールとして、児童自身が自分の取り組みを他者に伝えたり情報交換したりする活動を取り入れ、共に未来社会を築いていくという意識を高め、ESDを推進する。
- ・学区域変更後の愛和小学校の再スタートが児童にとって良い経験となるよう、互いの学校や地域を紹介し合い、他者を友好的に理解する力を育む。
- ・学校林や菜園での活動を通して環境問題を意識させ、環境保全意欲と行動力を育む。
- ・外部人材を活用しながら、豊かな体験活動と問題解決学習を実施する。
- ・省エネ授業、CO2削減、リサイクルを実践し、環境への意識の高揚を図る。
- ・近隣の幼・保・中学校と交流し、相手を尊重する心情と行動力を育てる。